

# 岐阜県立岐阜農林高等学校

学校長 渡邊 千洋

学校住所 本巣郡北方町北方150 電話 058-324-1145

1 会議の名称 平成30年度 岐阜農林高等学校 第1回学校評議員会

2 会議の構成 委員 飯尾 正澄 北方町民生委員  
今西 良共 国際園芸アカデミー学長  
木野村ともみ 北方町教育委員  
服部 里美 大垣共立銀行  
村瀬 里佳 本巣市教育委員

(委員名は五十音順)

学校側 渡邊 千洋 校長  
守屋 康晴 教頭  
吉田 勇人 教頭  
加藤 和宏 事務部長  
大矢 英樹 教諭 (教務主任)  
久松 一郎 教諭 (生徒指導主事)  
川島 茂樹 教諭 (進路指導主事)  
小川 正樹 教諭 (農場長) (欠席)

3 会議の目的 岐阜農林高校について地域を代表する方々から学校運営・改善のための意見をいただき、地域からの支援・協力のもと、地域に根ざし、特色と活力のある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成30年 6月11日 (月) 13:30~15:30  
岐阜県立岐阜農林高等学校 会議室  
委員5名、学校側7名が出席

5 会議の概要

- ・教育活動の紹介
- ・学校施設・授業の見学
- ・本校の教育方針と指導の重点および各分掌の目標について
- ・意見交流

## (1) テーマ : 教育活動の紹介

意見1 プロジェクト発表、意見発表ともに素晴らしい発表でした。今後に向けてのアドバイスとして、今回のように楽しそうに発表してくれると相手に内容がよく伝わるのでその点を心がけて発表してほしい。

意見2 徳山唐辛子の効果として野生鳥獣害が防げれば大変よいことなので、是非研究を進めてほしい。

質問1 野生動物としてイノシシ肉ではなく、ジビエとしてシカ肉だけを取り上げたのは、なぜですか。

回答 イノシシも、シカも、どちらも森林や畑を荒らす野生動物だが、特に捕獲数が多く商品化した場合の原材料が確保しやすいシカに焦点を当てて研究を進めている。

質問2 ホースセラピーということで、障がい者乗馬を実施しているが、その効果と参加方法はどのようになっているか。

回答 障がい者乗馬は、月2回何らかの障害を持った子供を対象に行っている。ロコミで参加しており、今は、参加登録を少し待ってもらっている状況です。

乗馬をすることで全身を使うため、小動物を使うアニマルセラピーに比べ効果があるといわれている。

## (2) テーマ : 学校施設・授業の見学

意見1 広い敷地の中で、様々な作物や動物を飼育したり、農業に関する専門的な実験実習をしていることがよくわかった。

意見2 岐阜農林高校は、北側の道からよく見ていたので知っているつもりだったが、こんなに広い敷地だとは知らなかった。

## (3) テーマ : 学校への提言と今後の課題について

質問1 昨年度、自転車通学生が凍結した道で滑って倒れたのを見た。車道側に倒れると事故につながるが、学校として注意喚起はしているか。

回答 自転車については、交通事故を含め、時期に合わせ何度も注意喚起をしている。

質問2 生徒をほめることは重要だと考えるが、生徒の顕彰制度はあるか。

回答 顕彰している。一つは、「学校長賞」といい、3年間部活動や生徒会活動など頑張ってきた生徒を表彰している。また、些細なことでも頑張っている姿を教員が推薦し、校長から顕彰する制度もある。

質問3 活発に部活動をしている姿が目立つが、入部している生徒はどのようになっているか。

回答 入学した1年生は、何らかの部に全員が入部することになっている。2, 3年生は拘束力はないが、そのまま継続して活動している生徒が多い。

意見4 昨年度でSSH事業が終了したようだが、昨年度は事業や活動が少なくなってきたと聞いたがどうであったか。

回答 昨年度については、大幅に事業費が削減になり、いくつかの事業については、実施が困難であった。だが、活動については、今までの流れもあり、大学との連携活動は継続できるなど前年度と変わらない研究活動をすることができた。

## 6 会議のまとめ

今後は、いただいたご意見を生かし、地域との連携をさらに推進し、生徒の活動の場を広めるとともに専門教育を充実させられるよう、生徒、教職員、保護者が一体となって活力ある学校づくりに邁進したい。また、生徒たちの自立のための教育を進めていきたい。